

# 丸亀市教育委員会会議録

1 日時 令和7年3月7日(金)  
午後3時00分～午後3時50分  
場所 市役所3階 教育委員会室

## 2 出席委員

委員	徳永秀文
委員	松岡 舟
委員	井下由美
委員	立石陽志
教育長	末澤康彦

## 説明のため出席した者

教育部長	窪田 徹也
総務課長	土井 節子
学校教育課長	岩井 俊明
総務課副課長	後藤 幸功
学校教育課副課長	西山 晋作
学校教育課指導主事	大西 賢志

書記 総務課庶務担当長 小野佳代子

3 傍聴 なし

## 4 議題

報告第31号 令和6年度丸亀市教育委員会表彰者の追加について  
議案第45号 丸亀市立広島小学校及び丸亀市立広島中学校の再開について  
議案第46号 令和7年度丸亀市学校教育方針について

5 報告事項

## 部活動地域移行の現状について

### 6 会議録署名委員の選任

丸亀市教育委員会会議規則第13条第3項の規定に基づき、次の2名を会議録署名人に指名する。井下由美委員、立石陽志委員。

### 7 議事の概要

---

午後3時00分 開会

---

#### 報告第31号 令和6年度丸亀市教育委員会表彰者の追加について

[総務課長]

令和6年度丸亀市教育委員会表彰被表彰者の追加については、12月定例教育委員会及び1月定例教育委員会において報告した教育委員会表彰の被表彰者に加え、学校等から追加推薦があり、丸亀市教育委員会表彰規程に基づき令和7年2月18日に表彰審査会を開き、被表彰者を決定したので、丸亀市教育長に対する事務委任等規則第3条第1号に基づき教育委員会に報告するものである。

内容は報31-2のとおり。

特になし

#### 議案第45号 丸亀市立広島小学校及び丸亀市立広島中学校の再開について

[総務課長]

令和7年3月から広島町に移住する児童・生徒が広島小学校及び広島中学校への通学を希望していることから、休校中の丸亀市立広島小学校及び丸亀市立広島中学校を再開することについて、教育委員会の決定を得たいのである。承認をいただいた後、県義務教育課に開校する届出を行う。

[委員]

今回広島小学校、中学校のどの学年に何名か教えてほしい。

[総務課長]

令和7年度に中学校1年生が1名、小学校5年生が1名、小学校2年生が2名で、合計4名で再開する。2世帯の4名である。

〔教育長〕

教室等校舎の概要を説明してほしい。

〔総務課長〕

広島市民センター2階で職員室、校長室、保健室、理科室、図書室、普通教室を2教室と多目的教室を予定していたが、そちらを普通教室で利用することで3教室確保している。あと教材室などを整えている。体育館は元々あるところを少し修繕すれば使える状態であり、運動場も使える。家庭科の際には、市民センターにある調理室を使用させていただき、給食もそちらで食べる予定である。

教育長が各委員に諮り、原案どおり異議なしと決定

### 議案第46号 令和7年度丸亀市学校教育方針について

〔学校教育課長〕

令和7年度丸亀市学校教育方針については、人とのかかわりを通して自分を見つめ成長する育成の方向性を明確にし、市内各学校の教育方針を策定するための指針とするため、「自立と共生」を基本理念とした丸亀市教育大綱を踏まえて、丸亀市学校教育方針（案）を作成したので、教育委員会の決定を得たい。

内容は議46-2～6のとおり。

教育長が各委員に諮り、原案どおり異議なしと決定

## 8 報告事項

### 部活動地域移行の現状について

〔学校教育課指導主事〕

先日2月19日に部活動地域移行検討会の中で説明した内容となる。まず、全国の中学生の推移であるが、1990年代ごろは全国で約500万人の中学生がいたが、現在は約300万人程度となっており、かなり減少している。運動部の部活動の参加率については、こちらも生徒数が少なくなっている以上に率が下がっている。次に運動部活動に参加している中学生の推移で、一部増えている競技もあるが、概ね減少傾向である。次は競技別運動部活動数の推移で、平成25年と令和5年の比較であるが、こちらも緩やかに減少傾向がみられる。中学校における合同部活動実施チームの推移、野球部は令和5年度になってかなりの数が合同部活で実施している。これは単独でチームができない学校が非常に増えてきたということであり、全国的な傾向と捉えている。サッカーも同じような傾向である。次に、文化部の状況について、こちらも緩やか

ではあるが、減少傾向である。吹奏楽部の現状は、厳しい状況がみてとれる。吹奏楽部というのは50人以上の大編成というのが今までメインであったが、20人程度の少人数編成が増えており、参加生徒が減っている状況である。そのようなことから部活動の改革が必要であるという意見が出されて、地域移行が現れてきた。

令和4年12月に出された総合的なガイドラインでは、「少子化が進む中、将来にわたり生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保する」、これが一番のテーマとなっている。次に、令和6年12月18日に出された中間まとめでは、基本的な理念は先ほどと変わっていない。大きく変わったのは部活動の地域移行と我々慣れ親しんでいたが、名称が地域展開に変更した。地域移行というと中学校の部活動をそのまま地域へ移していこうという考えに思われ、なかなか進まない。地域と協力しながら地域と展開していきましょうということで、新聞等にも少しずつこの地域展開という言葉が載っていると思う。改革期間は、令和4年から7年度までが第一次、令和8年から10年度までが改革充実期、またそこで中間評価をして後期の令和11年から13年までで地域展開をどんどん進めていく。同様のレベルで進めていくというよりは、それぞれの地域の実態に合った進め方をしていく。また、部活動が学習指導要領に明記されていたが、この取扱いも今後変わってくる予定であると聞いている。

今後の予定ということで、令和7年2月17日、第5回地域スポーツクラブWGが行われた。詳しいことは発表されていないが、それを受けて3月中に第6回地域スポーツクラブWGで最終とりまとめの素案が出る。ここで学習指導要領の取扱いや総合型地域クラブに認証制度を取り入れるなど、地域クラブを規定していこうという話が発表されるのではないかなと思っている。

次に、予算の推移であるが、来年度運動部は約60億円、文化部は約10億円の予算と聞いている。そういったことで、国の方はどんどん進めていこうとしている。皆さん新聞等でご承知のように、神戸市はすべての部活動をやめて地域移行するとあるが、熊本市は部活動はやめない、一切移行しないと、それぞれの自治体で動きが違っており、いろいろな状況がある。丸亀市も状況をみて、子どもたちが不利にならないように、丸亀市の野球のクラブ化を視野において改革をしようとしている。

次に、県の動きであるが、県の方も国の動きに沿ってやっている。その中で大きいものが指導者バンクである。クラサポかがわで部活動指導員のデータバンクを運営している。現在の登録者は、本日確認したところ46名おり、丸亀市在住の方がそのうち12名である。丸亀東中学校卓球部で指導者を募集したところ、指導者の専門的技術のある方を募集していたが、応募してきた方がトレーニング専門の方であったので、マッチングが上手くいかずに今回は見合わせた。今後はいろいろな情報を取得していきながら、いい指導者を部活指導員という形で募っていく予定である。

〔委員〕

クラサポかがわについて、この登録者というのはどういう段階を経て登録ができるのか。例えば本人がやりたいといえればできるのか。面接などがあるのか。

〔学校教育課指導主事〕

登録する場合には、どんなことを指導できるのか等、自分で登録する。何のフィルターもかかっていない。少し心配な部分もある。

〔教育長〕

フィルターは全くかかっていないのか。

〔学校教育課指導主事〕

誰が申し込んでいるのかは、名前や連絡先や所属は出ているが、嘘か本当かは分からない。ライセンス等も書いているが、どんな人物なのかは一切分からない。

〔委員〕

クラサポにどの地域がどういう指導者を必要としているかという情報も載っているのか。

〔学校教育課指導主事〕

載っている。丸亀市は2つ出している。

〔委員〕

ホームページを覗いた人で自分がやってみようというのであれば入力し、名前がそこへ登録される。あとは市町の方で見てその方と面接をして上手くマッチングすればお願いする。ちなみにどういう方が多いのか。元学校の教員や何らかの形で教育に携わっている人が多いのか。

〔学校教育課指導主事〕

どちらかという、全く関係がない方が多い。競技専門、トレーニング専門でやられている方が多い。丸亀市で2名ほど小学校の教員で登録されている方がいる。そういう方にも声をかけてみたい。

〔委員〕

現職の教員か。

〔学校教育課指導主事〕

現職である。

〔委員〕

現職だと兼業とかの手続きをしなければならないのか。

〔学校教育課指導主事〕

最近では現職兼業願を出してするという流れになってきている。

〔委員〕

私の孫が小学校4年生の時に1年間協力をした。その時に感じたのは、地域クラブのようなところに預けて、月謝がそれなりに必要である。もっと大変だったのは、連れて行って1時間いて連れて帰ること。今退職して時間があるが、それを家庭の中でお父さんお母さんが一生懸命仕事しながらするのは大変だろうと思う。今サッカーや野球でもクラブチームができていますので、競技の特性に合わせたそういうクラブがあるのは子どもたちの選択肢としていいと思うが、家庭の協力がなくなかなかできない。そういう意味で地域展開というのは、思いある人がどんどん育ててくれてトップ選手になればチームの活性になるが、それ以外の子どもたちが置き去りにならないようにしてあげないといけない。学校の行事でも課外的な運動や文化部の中で育ててもらっているので、その受け皿は大事にしてほしいと思う。

〔教育長〕

先日の3月議会でも質問があったが、今後の見通しということで実証事業をする中で、その観点として指導者、受け皿と同時に、生徒の移動の面であるとか、費用、受益者負担の面などもしっかりと実証事業の中で検証していくと答弁をしている。それと同時に、丸亀市の3つの基本方針、そのトップは子どもにとって有意義な活動であること、3点目の持続可能な点であるので、私の考えとしては子どもたちがきちんとスポーツ・文化・芸術の活動にできる環境があるということは大事にしていかなければならない。

〔委員〕

大きな市でも神戸市と熊本市では違った考えである。県庁所在地などの大きな市では、母体の規模が違うのでいろいろなパターンができるのは国が認めている。その市町に沿ったルールが、柔軟になってきてはいるが、まだ縛りが多すぎていろいろなアイデアを出そうと思ってもできない。大会に出られないとか国の補助が出ないとかがある。そういうものは少しずつでも、次の3年間、最後の3年間に向けて変えていってくれたらと思う。もっと受け皿の広い柔軟な、

実情や現場に合わせたものにしてもらえたらありがたい。

〔委員〕

人数が少ないものは人を集めていくしかないけれども、移動に関して何かしらの方法が見つかってくると、自然と人数が少ない部活から上手く進んでいくのかなという気がする。そこについてはまだ解決法は出ていないのか。

〔学校教育課指導主事〕

先日神戸へ発表を聞きに行ったが、移動と費用、この2点についてどこも苦労している。地域差負担、広域団体との連携、クラウドファンディングやふるさと納税など、予算の面ではなかなか苦しいところがある。

〔委員〕

費用については行政の方でどうにかできるのかなという気がするが、移動はなかなか難しい。自分の子どもを習い事に連れていくにしても、中途半端な時間で遠くに連れていくとなるとやはり難しい。学校だと部活をやって帰るという形だが。

〔教育長〕

吹奏楽部を集めて行う場合に、人だけでなく楽器もあるので非常に厳しいという話がある。頭に「部活動の」というのが付いて回る限り、非常に意識を変えていくのは難しいかなと思っている。今の中学校が担ってきた部活動の意識を持って移行や展開するのは非常に難しい。ニーズや現状に応じて合同部活動や拠点校部活動、今動きがある実証事業を含めて、いろんなところからしっかり検証をしていって、ここはこうやったら上手くいく、逆にここは厳しいという成果と課題を実証事業の中で明らかにし、それをいろいろなところに発信をしていく必要があると感じる。

〔委員〕

部活指導員、今丸亀市の場合は9名ほどだったが、土日が中心か。

〔学校教育課指導主事〕

平日しか出られないという方もいる。手当は全部出る。

〔委員〕

今指導している中で困った問題とか、そういうのは出てきていないのか。

〔学校教育課指導主事〕

前任の先生が慎重に選んでくれた関係で、問題は一切出ていない。今年新たになった方も保護者会からの要望で入れたり、その人選はとても大事で、校長の方も欲しいという要望はあるが、その場合は自分で見つけてくれと言っているのも、なかなか進まないというのも現実としてある。予算的には運動部 10 名分、文化部は 3 名分取っていただいていたが、すべては使い切っていない。今いる方のうち来年度は 2 名の方が引退されるので、7 名からのスタートとなる。

〔委員〕

個人的な考えであるが、部活動、ジュニア期のクラブ活動にしても、やはり教育という文字は外せない。高校は別かもしれないが、幼小中ぐらまでは、スポーツにしても文化活動にしても教育という部分を外したのではだめだと思う。勝利至上主義に求めたのでは子どもの心がどこか荒んでくる。そういう数々の生徒を見てきているので、中学校に部活動があるけれどもクラブに入って上手くいかなかった生徒も随分いる。そういうのを考えたら指導者の問題、教育という二文字を持たずに指導されると子どもの心に大きく影響する。そこを丸亀市は絶対に外してはいけないと思うので、その辺りで今後話を進めていってもらえたらいいなと思う。ジュニア期もスポーツ少年団、子どものスポーツ活動等、スポーツ推進課が強く関わっていると思うが、そういう観点で今後の話を進めてほしいなという気がする。

子どもたちの移動については、飯山中学校にバスがある、それも老朽化してやがてはどうなるか分からない状況であるが、子どもたちが移動することを考えたら、スクールバスのようなものをどこかで何台かは用意をできるようにしていかなければ、地域展開はますます難しくなっていくような気がする。

〔委員〕

学校の先生は授業を教えるとか人間を育てるのはプロであるので、その力を活用するとすごく効果を上げると思う。先生の代わりの指導者集団が香川県の中にどこにいるのか。丸亀市の中でもいろいろと活躍している人はいるが、若い方のボランティアもいつもは無理であり、プロの指導者の方は市外のクラブチームとか遠いところにあるから、親の送り迎えができない。指導者の教育力を含めた、学校の中にそういうのがあるというのは事実だと思うので、大事にしてほしい。

もう一つの予算の部分、視察に行ったある町では国の補助をもらっていなかった。丸亀市は国の補助を活かし、市も 1/3 出し、部活指導員への謝金が 1,700 円であった。ある町は 1,200 円程度に謝金を下げて、縛りをなくして自分のところだけでやると。今市が 1/3 出している

ころを2/3くらいにして、補助をもらわない。じぶんのところだけでやればその代わりに縛りがなくなっているんなことができる。中体連ルールだけはまた別だが、そういうふうに工夫すればスムーズに流れ出すと思う。その時は、丸亀市にも予算面で考えていただけたらありがたい。

〔教育長〕

私が先ほど「部活動の」と頭につくと言ったのは、国や県が将来的に地域に移行することを全然譲らない。それを考えた時に、丸亀市もそこへ向かっていかざるを得ないという意味で、今の部活動をそのまま移行していくというのは地域の理解や期待感というものを、そういったところから変わっていってもらわないと、学校現場とそれをみる人と地域、保護者の期待とがなかなか合っていないだろうと気がする。子どもたちがしっかりと成長することは教育的な観点から外してはいけないと思う。どちらかという、保護者や社会の意識をどう変えていくかということをお我々はしっかりと意識して、情報発信して巻き込んでいかなければならないと感じている。

〔委員〕

部活動地域移行するにあたり、保護者への理解は重ねて求めていかないと。やはり地域移行をするのは働き方改革があるんだよねというのが付いて回るので、今説明あったように、このままの現状で進めていけないんだというところと、人口も減少していくというところで、保護者へ理解を求めることは大事である。その先に子どもたちを教育するところから外れないという大事な部分も継続して伝えていっていただけたらなと思う。

〔教育長〕

三本柱の2つ目に働き方改革というのがあるが、それは大きな背景にあるので、保護者、地域、市民の方はそこを通してなかなか諸手を挙げて賛同とはならない。それはコミュニティに訪問してご意見伺う中で、教員の働き方改革推進の難しさを非常に感じた。実証事業で検証しながら、成果ばかりではなく、難しさを出していくことも必要なのかなと。私自身も将来的にいつ頃どうなるのかというのは見えないのだけれども、やっていかなければ進まないの、できることをやっていくことが大事であると思っている。お知恵をお借りしながら、よろしくお願いする。

9 閉会

午後3時50分